

教育広報

第41号
平成17年3月

いるま

題字：教育長 石 田 宣 雄
編集：教育広報いるま編集委員会
発行：人間市教育委員会学校教育課
電話 04-2964-1111 (内4145)



『はじめのいっぽ』

あずま幼稚園

だるまさんがころんだのはじまりだ

ドキドキするな
ワクワクするな

ちよっぴりきんちようもするな

でもだいじょうぶ

たくさんの中まがにいるからね

いっぽ いっぽ ふみしめて

あとすこし もうすこし

「きーった。」

だるまさんがころんだのように

みんなで

あらたな「はじめのいっぽ」を

むかえるぞ



確かな学力を育む少人数指導

教育現場では、基礎基本の確実な定着を図り、確かな学力を育むことが求められています。

そこで、各学校では、一人一人に応じた指導の充実をめざして「少人数指導」に取り組んでいます。

少人数指導とは、これまで行われてきたチームティーチング（複数の教員で教える方法）に加え、学級内や学年内をいくつかの少人数グループ



小学校でのチームティーチングの様子

プに分けて指導に当たることです。

ここでは、子どもが自らの興味・関心や学習内容の理解・習熟の程度に応じた課題に取り組むことができます。

さらに中学校では、選択教科も含めて、子どもの実態や指導場面に応じ、効果的な指導方法をめざして、各学校で工夫した取り組みが行われています。

小学校では、ほとんどの学校で四年生以上の算数において実践されています。中学校では、主に体育・数学・英語・理科の教科が中心になっています。

実践を通して、「わかる・できる子どもが増える」などの成果が寄せられています。

入間市立仏子小学校 「児童一人一人の個性に応じた算数指導」

本校では、その実現のために、教材の基礎・基本を明ら

かにすることや、一・二年生は週三時間、三年生以上は週二時間のチームティーチングやコース別学習等の少人数指導を実施しています。

本校ではコース別学習に入る前に児童の実態を把握する前に児童の実態を把握するレイネステストや学習がどれくらい身についたかを振り返るテストを行っています。

その後、教師からのガイダンスを通して子どもたち各自がコースを選択しています。

コースは、「じっくり」「すらすら」「のびのび」の三分に分かれ、児童一人一人の個性に応じた学習が展開されています。

その結果、「少ない人数で話が聞きやすいくれいすいすい」「手を上げて答えやすいし、丸付けも早いのでいいと思いません。」等の児童の声もよく聞かれます。

写真は、仏子小学校での少人数指導の様子です。おはじきを使って、一年生が引き算の学習を行っているところで、ヒントをつかんだら席に戻って学習を続けます。

入間市立豊岡中学校 「確かな学力の育成」

一人一人に応じたきめ細かな指導を充実させるため、クラスの人数が十七名前後の少人数学級を作り、子どもたちのニーズに応えられる指導を行っています。

今年度は三年生の数学・英語の全授業、二年生の数学、一年生の英語（前・後期制）で少人数学習を実施しています。

「質問がしやすい。」「わか

りやすい」「最後まで教えてくれる。」等の生徒の声をよく耳にするようになりました。また、教師も「一人一人に目が届く。」「その場で評価し、すぐに対応できる。」等、好評です。

写真はノートに書いた生徒自らの考え方や立式等を見ながら具体的に教師がアドバイスしているところです。生徒数が少ないので一人の生徒にも十分説明ができます。

今後さらに効果を上げるため、現在、指導法の工夫、評価のあり方について研究を進めています。



豊岡中学校
数学科の少人数指導の様子

元気な心と体は 食生活から
食の大切さを見直そう
学校栄養部

最近、食の教育の重要性を唱える声が高まってきました。それは、朝食欠食の実態、孤食の状況、肥満増加、瘦身の傾向、夜型生活の低年齢化などが深刻化してきたからではないでしょうか。

忙しい毎日の中で、つい家族で食卓を囲むことから遠ざかってしまっていたり、便利で手軽な食べ物を利用してしまふことで、様々な食品添加物や化学物質も体の中に取り込んでしまっています。

◆学校での取り組み

現在入間市には、二十名の学校栄養士がいます。

安全な食材選び、季節や旬を感じる献立・安心できる味を求め、努力しています。

学校栄養士は、また、「食の大切さ」を子どもたちに伝え

ることも大事な仕事です。

入間市での食の教育は、二十五年ほど前から始められていました。

初めのころは、給食指導や栄養指導を行うための資料や教材を作りました。

紙芝居やパネルシアターなども作り、食べ物とその働きや



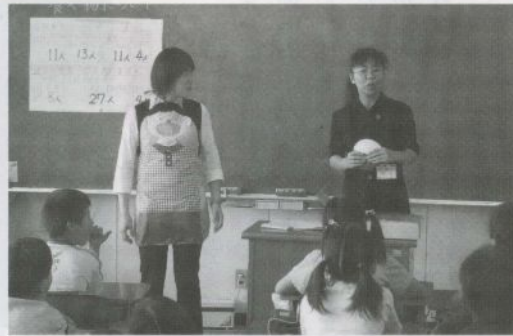
手作りの資料

食材の取り方等を指導する際に現在も活用しています。

十五年ほど前からは、栄養士が子どもたちに教える実践が始まりました。

実際に給食を作っている側

から子どもたちに、食の大切さを直接伝えていきます。



栄養士の先生と

小学校の学級活動の時間では、給食に使う食材のグリーンピースやそら豆のさやむき、とうもろこしのかわむきなどの体験的な学習にも取り組みました。

「どうしよう、きょうのグリーンピース嫌いなんだあ...。」
「どうする？一口食べて、挑戦してみたら。」と言うと、次の日、「あのね、残さないで食べられたんだよ。」と報告をしてくれま

す。

ほんの少しの工夫と励ましとで、子どもたちは食に対して興味を持ちたり、食べ物を大切にしたりするのです。



そら豆のさやをむいたよ

学校では、食環境の整備についても見直しをしています。

ランチルームを開設したり、青空給食や卒業バイキングなどの取り組みもあります。

また、「給食だより」などで、食をめぐる様々な情報提供を行い、家庭への呼びかけにも力を入れています。

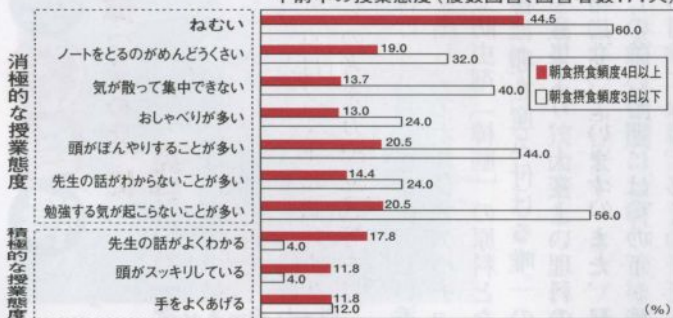
◆家庭では

さて、家庭での食事の場面にも、大切な役割があります。

食卓を家族で囲み、笑顔で会話をすることは、子どもたちの心の安定を作ります。

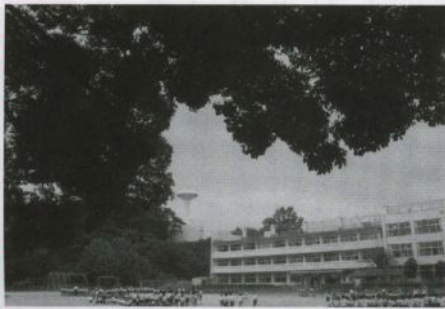
子どもたちは食を通して、自分は家族にとって大事な存在であること、大切にされていることがわかります。それが伝われば、子どもたちは不安な気持ちがなくなり、元気に学校で生活できると思います。ぜひご家庭でも食の大切さを見直し、子どもたちの心と体の健康を守ってあげてください。

朝食には、やる気を起こさせる効果あり
午前中の授業態度(複数回答、回答者数171人)



子どもたちが輝いている学校

東金子小学校



所在地 / 入間市大字小谷田1524

児童数 / 491人 (18クラス)

教職員数 / 39人

学校教育目標 進んで学ぶ子
きまりを守り 仲よくする子
最後まで やりぬく子



東金子小学校長 安中 高明

発見・体験ピオトープ
——自然とふれあう学習——
平成十五年二月、待望のピオトープ（小動物が生きられる環境を再現した場所）が完成しました。それから約二年、土がむき出しだった地面にも草が茂り、ピオトープにも様々な生き物が集まるようになりました。ピオトープができたことによつて、自然に興味を持ち、身近な植物や生き物と容易にふれあい、子どもたちの目が自然の生き物に向くようになりました。このピオトープでの発見や体験の一つのきっかけとして、子どもたちの興味は、加治丘陵の自然とふれあう学習に広がって

います。今後も、加治丘陵やピオトープから多くのことを学んでほしいと思います。



「あつ 生き物がいるよ。」

伝統のシイタケ栽培

——地域の産業を知る学習——

本校では、十数年前からシイタケ栽培に取り組んでいます。地域の産業を知る学習の一環として、地域の方々にご指導をいただいています。春に、五年生が原木にシイタケ菌を植え付けるコマ打ちを行い、学校の裏山に一年半ほどねかせておきます。翌年の秋、六年生になった児童が、その原木を学校に持ち帰って、一晩水につけます。その後、栽培用の教室に入れ、シイタケの出るのを待ちます。そして、頃合いを見て収穫します。子どもたちが育てたシイタケ

は毎年すばらしいできばえで、市の農業祭に出品して賞をいただいたこともありました。毎年このシイタケを使った給食を全校児童で味わっています。



「さあ 収穫だ。」

シイタケ栽培を終えて

——子どもの声——

「収穫をしたシイタケを近所の人にあげたら、『とってもおいしかった。ありがとう。』と言われ、うれしかった。シイタケを育ててよかったと思いました。」

「自分たちの育てたシイタケが、お店で見えるようなものより大きくなって、びっくりしました。」

地域の産業であるシイタケ栽培を、今後も続けていきたいと考えています。



樟(くすのき)に

見守られて

本校の校庭には、市内で最も古くて大きい、樹齢約七十年の樟がそびえています。校章も樟の葉をかたどったもので、学校のシンボルになっています。樟は、五月になると芳しい香りを出し、アオスジアゲハチョウ(防虫剤「樟脳」の原料となる樟に卵を産み付ける唯一の蝶)も集まり、大変よい理科の教材になっています。また、日差しの強い時期には樟の下が絶好の日陰になり、多くの子どもたちがそこで遊んだり、涼んだりしています。

この樟は、いつまでも東金子小学校の子どもたちを見守ってくれることと思います。



「こんなに太いよ！」

輝く伝統を基盤に 一生き生きとした児童の育成をめざして一



金子小学校長 関根 信夫



本校は、今年で開校九十八年目を迎えました。校庭にそびえ立つ「けやき」は、本校のシンボルとして、開校以来多くの児童を見守ってくれています。文部科学省と埼玉県教育委員会の指定、入間市教育委員会並びに入間市教育研究会の委嘱を受け、「学力向上フロンティアスクール」―確かな学びの育成―を研究課題とし、昨年十一月に研究発表をさせていただきました。市内はもとより、近隣の市町村からも多くの先生方の参加がありました。

もうすぐ開校百年

また、昨年度から毎月一回休み時間を利用して、縦割り遊びを始めました。高学年のリードのもと、遊ぶ内容をグループで話し合ってから実施しています。他学年と遊ぶ楽しさを通して、相互に思いやる心が育っています。



清掃を通して・・・

今年度から、東校舎に二ヶ所、階段踊り場を利用したミニギャラリーを開設しました。現在の掲示は、金子公民館で活動されている、写真愛好家サークルの皆様の協力をいただいております。これから、身近な町の風景、家族や友人など、心温まる作品が掲示されることと思います。児童がこれらの素晴らしい作品を見て、生き生きと活躍されているサークルの人達とふれあうことを期待しています。



芸術的な作品

「わあ、きれい」
初めて見たときの児童の声です。

ミニギャラリー開設 金子公民館と連携

縦割りの清掃と遊び ―異年齢交流―

本校では「心豊かな子」をめざし縦割りの清掃や遊びを実施しています。縦割り清掃では、一年生から六年生の異学年グループを作り、グループ内で協力して清掃をしています。班長の高学年児童が、低学年児童に掃除の仕方を教えている姿をよく見かけます。教えたり教えられたりするなかで、異年齢の良い関係が芽生えています。

金子小学校



所在地 / 入間市西三ツ木150

児童数 / 675人 (20クラス)

教職員数 / 42人

学校教育目標 **か**しこく
ねばりづよく
こころゆたかな子

学校

今回の学校は



★金子小学校

学校自慢

「結構なお手前で…」

本校には、茶道クラブがあります。しかし、茶室はありませんので、自分たちで生活科室に畳を敷くところから活動が始まります。講師には、近隣の茶道の先生をお招きし、毎回、丁寧な指導をいただいています。現在クラブ員は、四年生から六年生の男子五名・女子十名です。

ここ金子地区は、狭山茶の本場。学校の南側には、一面に茶畑が広がっています。クラブ活動を通して、狭山茶とのふれあいを進めているところです。



精神を集中して

野田中学校



所在地 / 入間市大字野田1741

生徒数 / 310人 (9クラス)

教職員数 / 29人

学校教育目標

- 心豊かな生徒
- よく考える生徒
- 健康な生徒

活気に満ちた、創造力のある 野田中学校



野田中学校長 小野 順治



本校は、今年で開校十五周年になります。市内で最も新しく、明るい環境に恵まれた学校からの眺めは素晴らしいものです。校歌の一番には、「さわやかな空にあげひばり 希望ふくらむ野田の丘 窓辺に加治の山映えて 秩父嶺遠く 富士白し・・・」と歌われています。心が安らぎ、四季折々の美しさに心動かされることもたびたびです。開校以来、学校は「人間として成長する場。理想を追求し、夢や希望を語る場。楽しく居がいのある場」であるということをし、常に念頭に置いて、全ての教育活動を行っています。また、平成十五、十六年度の二年間、入間市教育委員会、教育研究会の委嘱を受けて「生きる力を育てる総

合的な学習の時間」についての研究、実践、発表をしてきました。**生き生きと輝く生徒**

学びの場にふさわしい雰囲気の中で、生徒たちは一人一人が向上心を持って、明るく生き生きと何事にも真剣に取り組んでいます。生徒会活動にも意欲的に参加し、「明るく規律ある学校づくり」に取り組んでいます。部活動にはほとんどの生徒が加入し、それぞれの部を全職員が担当しています。六月の遠足や、



生徒総会
「提案に賛成します！」

修学旅行には、各学年とも全員が参加しました。音楽会では各クラスの合唱の他、選択音楽の合唱や器楽の演奏もありました。二、三年生合同の選択音楽の合唱は、学年を超えて気持ち一つになり、素晴らしい発表でした。参観の保護者は二百名を超え、それぞれの発表に、感

動の涙をうかべる姿も見られました。**地域と共に生きる生徒**

生涯学習を見据えて、地域の活動への参加を奨励しています。公民館の文化祭・書き初め展には多くの生徒が出品しています。地区体育協会主催の各種スポーツ大会にも積極的に参加しています。先日の西武地区駅伝大会には、生徒が十チーム参加し、地域の皆さんと一緒に汗を流しました。また、職員チームも参加しました。



グランドゴルフ
地域の方とホールインワン！

に楽しいひと時を過ごされました。また、「総合的な学習の時間」でも、「地域を知り・地域から広げ・地域に戻る」をテーマとして取り組んでいます。

学校自慢

楽しい総合的な学習の時間

私たちの学校では、「総合的な学習の時間」が、とても充実しています。「地域改善大作戦」という大きなテーマのもと、生徒一人一人が個人でテーマを決め、調べ学習や体験学習をしています。

自分たちの住む地域をよく知り、地域の問題点を考え、その改善のための作戦を探っていくという一連の活動は、自分も地域の一員であるという自覚を深めてくれます。また、地域の人たちとの交流も楽しいです。

これからも、この学習を生かし、野田地域の発展のために尽くせる人になりたいです。



健康・命の大切さを伝えたい

交通事故ゼロを目指して

市内の幼稚園・小中学校では、「交通事故ゼロ」を目指して、交通安全教室の開催、「一声運動」の展開など児童・生徒の交通事故防止に取り組んできました。平成十六年度は、特に一学期に小学生の交通事故が多発しました。自転車での一時不停止による車との接触事故が目立ちました。交通事故は命に関わる問題です。

今回は、各学校で実施された取り組みを紹介します。春休みを控え交通安全には、ご家庭でも一層の指導をお願いします。

小学校での取り組み

五月から七月にかけてすべての小学校で、埼玉県交通安全課の「交通安全まなび隊」にお世話になりました。

安全教室には、のべ四十二人



腹話術で交通安全

の隊員の方々が県内各地からボランティアで来てくださいました。腹話術、マジック、紙芝居等と交通安全講話を組み合わせた指導は子どもたちからも好評でした。自転車の正しい乗り方の実演の時には、児童が自ら自転車に乗ったり、クイズに答えたり楽しみながら交通ルールを



乗る前には点検を

学びました。

また、市の交通安全指導員の方々からも交通安全に関する指導をいただき、保護者と児童と一緒に下校するなどの取り組みも行いました。

中学校での取り組み

中学生も自転車で走行中に車と接触する事故が発生しています。特に夜間の自転車の乗り方については注意しなければいけ

ません。

狭山警察交通総務課の警察官から「早めのライトの点灯、反射テープや反射板をつけてください」と暗い体育館の中でテープが光る様子も実際に見せていただきました。

また、最新作の「ヒヤリハットをかぶったら」(ビデオ)を上映しました。「ヒヤリ」とした経験が多くなるとそれだけ事故に遭いやすくなると知りました。



青でも注意して渡りましょう

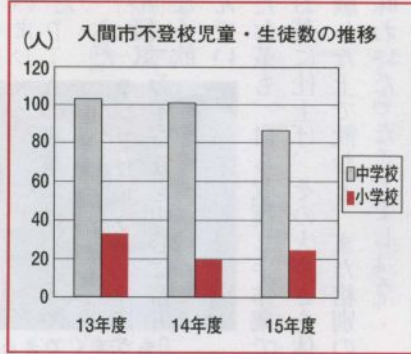
一声運動の日常化

交通安全指導は、日々の活動です。学校では、下校時に車に気をつけるよう声をかけるようにしています。ぜひ、ご家庭でも出がけには、「一声「車に気をつけるように」と声をかけてください。」

不登校のサインを見つけて

一 不登校の推移と現状

市内の公立小・中学校の不登校児童・生徒数は、全体としては減少傾向です。しかし、まだ一〇〇名を超える児童・生徒が不登校(年間三十日以上)の欠席となつています。



二 不登校とは

不登校とは、学校に行きたくても行けない、または学校に行かない状態をいいます。その原因や背景には、家庭、学校、地域社会の様々な要因が複雑に絡み合っていることが考えられます。家庭、学校、相談機関が協力して取り組むことで、不登校のサインを早期に発見し、不登校を未然に防ぐことができます。

三 不登校のサインとは

- ・朝、なかなか起きてこない。
- ・夕方は元気だが、朝になると調子が悪くなる。
- ・元気がなくなった。
- ・学校のことを話したがいらない。
- ・普段遊ぶ子と遊ばなくなつた。
- ・外に出たがらない。 など

四 サインを見つけたら

お子さんの様子が気になったら、抱え込まずに学校に相談しましょう。電話で話しにくい場合は、連絡帳などを利用する方法もあります。家庭にとって最も相談しやすい方法を担任の先生と話し合みましょう。

また、お子さんの気持ちを優しく受け止め、お子さんが、あるがままの気持ちを安心して打ち明けられるようにしましょう。

入間市では、不登校児童・生徒の学校復帰と、その予防を含めた総合的な対策を重点施策として取り組んでいます。ご相談等は、教育研究所でも承ります。

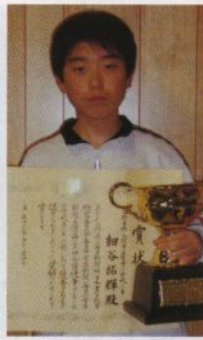
【連絡先】入間市教育研究所
 電話〇四―二九六四―七八三〇
 〇四―二九六四―八三五五
 産業文化センター前図書館三階

グッドニュース

やったー！ 文部科学大臣奨励賞受賞！

宮寺小学校

十月に行われた毎日新聞社主催の硬筆展で、六年二組の細谷拓輝君は、三万七千六百余人余の出品者の中から五人に与えられる文部科学大臣奨励賞を見事に受賞しました。四年生の時にも同じ賞を受賞しており、二度目の受賞です。



2度目の栄冠

四歳から通い始めた書道塾に今でも週三回は通い、今回も百枚程練習しましたが、本人は「もう少し練習したかった。」とのこと。毛筆も得意ですが、本人は色の濃さを筆圧で調整できる硬筆の方が好きだそうです。

国体のファイナレは、 さやまっ子ソーラン

狭山小学校

「会場の拍手が鳴りやまない中、演技を終えた子供たちの充

実感・満足感あふれる笑顔を見た時、とても嬉しくなりました。」

昨年十月二十

六日に彩の国まごころ国体閉会式の公開演技として、本校五・六年生がソーラン節を披露しました。



感動のフィニッシュ「ヤー!!」

今や本校の伝統になっているソーラン節です。大変な苦労や努力で完成し、精一杯演技した子どもたちの姿は、「元氣な人間」を象徴し、素晴らしい感動を与えてくれました。

「地域クリーン運動」

黒須中学校

黒須中学校では、「二歩」という言葉を生徒会本部のスローガンとし、「挨拶、奉仕、努力、団結、忍耐」を重点目標に、生徒が主体的に活動をしています。

「地域クリーン作戦」と名づけられた奉仕活動には、「クリーン運動（通学路清掃）」、「輝き大作戦（入間川美化活動）」、「地域運動（黒須市民運動場の清掃）」の三種類があります。

昨年度「なかなかやるな中学生」の委嘱を受けスタートした「地域クリーン運動」は、生徒からの声により、今年度も引き続きがれました。有志生徒、教職員、PTA役員、地域の方々とともに、夏休みの半日、気持ちのよい汗を流しました。参加生徒が昨年度よりも増え、奉仕の心が育まれつつあります。これからもこの地道な活動が引き継がれ、地域に根ざした学校づくりの一翼を担っていかねばと願っています。



みんなの力でクリーンに

手揉み茶体験

つんで・もんで・のんで

仏子小学校

六月、三年生は茶摘み。その

茶葉を保存して、十月、手揉みでお茶を作りました。

地元の手揉み茶保存会の方々の指導をいただき、暖めた焙煎の上で、茶葉を手でこすりあわせ、練ること三時間。交代で作業後、でき上がった新茶を早速試飲し、みんな満足げな様子でした。また、袋詰めにして持ち帰り、家族でも味わいました。



「もうすぐできるぞ。」

ふだん何気なく飲んでい たお茶も、自ら収穫し手作業でお茶に仕上げ、その大変さを体験した上で飲むと、また格別の味わいだったことでしょう。日本の伝統文化を担う心の芽生えを願っています。

やったぞー！日本新記録

東金子中学校

十一月二十八日、三十三チームが参加した第二回ロープジャンピング（大縄跳び）大会が東町小学校で開催されました。市内の小・中学校からは二十



心を一つに、いざジャンプ

五チームが参加しました。東金子中学校二年三組Aチームは、三百五十四回跳んで四千九百五十六ポイントを獲得し、ロープジャンプX日本新記録として公認されました。

編集後記

「光陰矢の如し」季節は巡り、学校では卒業の時期を迎えます。裾野まで白く見えた富士山も趣を変え、秩父連山が雄々しく見える季節となりました。

教育広報「いるま」四十一号では、「グッドにゆうす」への応募がたくさんありました。各校（園）で素晴らしい活動が展開されている賜物です。今後も特色ある活動や成果などを掲載してまいります。